

第7回「女性研究者のリーダーシップ」研究会のお誘い

この研究会は、愛知大学研究助成金による研究プロジェクト「女性研究者のリーダーシップ研究」の活動の一環として行われるものです。公開研究会ですので、研究会への参加は大いに歓迎いたしますので、興味のある方はどうぞご遠慮なくお越し下さい。今回のテーマは、「都市計画と家づくり」をお話します。

テーマ：

まちづくりといえづくり

と き：2007年4月2日(月) 午後5:30～午後7:30

と ころ：京都大学 百周年時計台記念館 会議室 IV

講演



- ① 広原 盛明先生 (龍谷大学)
タイトル 「建築学、まちづくり研究における男女共同参画への動き」
- ② 川本 真澄氏 (京都市もえぎ設計 建築士)
タイトル 「生活に根ざした建築設計」



広原先生は、女性を育てたことで有名な京都大学西山研究室の出身です。大学院時代からその切れのよさと、透徹した論理で、ちょっときついですが優れた仕事をされておりました。田中恒子さんのお話にもありましたが、研究については西山先生以上の厳しい人だったのではないかと思います。いい加減なことをいっていると、ピシャッとやっつけられるので、怖い存在でもありました。そして、西山研の助手時代から、共働きで、朝はやくきて仕事をし、夕方には帰る、という生活態度を貫き、夜型の院生を厳しくしつけられていたとか。今、お茶ノ水女子大学では「9時5時体制」をスローガンにしているそうですが、もう40年近く前にこれを実行した広原さんは、よほどの実力の持ち主であったことをうかがわせます。田中さんの話の中にも厳しい広原さんの話は出てきました。報告を楽しみにしててください。また、さっさと京大を出て、京都府立大学に移られ、そこでは、学長をされておりました。この府立大学で育てられた一人が、川本真澄氏です。その厳しい訓練のおかげで女性らしい感性と、設計士としての腕前で、生活に根ざした設計の現場でがんばっておられる方です。いろいろな苦労があるでしょうが、今回は、自分の目線で、今の建築設計の現場からの発言をしていただくと思います。家事や育児をこなしながら暮らせる家、効率的でしかも心温まる家作りを女性ならではの視点から取り組んでおられる川本さんと広原先生の組み合わせが、どんな展開になるか、楽しみです。辛口の女性研究者に対する批判もしてほしいと頼んであります。広原さんは学長の後京都市長選に出られた経験もお持ちです。残念ながら当選しませんでした。もし当選していたら面白い京都市が今頃見られたでしょう。尤も私はやはり広原さんは、アカデミックの世界で頑張してほしいような気もしています。今は龍谷大学で教鞭をとっておられます。

愛知大学共同研究助成金「女性研究者のリーダーシップ」(代表 坂東昌子) 主催
女性研究者の会：京都 協賛